

年 度	令和7年度
市町村名	香美市
家屋番号	

木造住宅耐震診断結果報告書

発注者

香 美 市

(香美市香北町美良布地区家屋耐震診断委託業務)

調査年月日

令和7年7月15日

添付書類

- ☒ 「精密診断法」による診断システム(P評価12－改2－W－ホームズ君耐震診断Pro Ver. 4.4.2.2(2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法))出力データ
- ☒ 写真帳
- ☒ 注意事項



耐震診断（精密診断法1）

建物名 香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

1. 総合評価
2. 上部構造評点
3. 建物重量の計算 （必要耐力を建築基準法施行令に準じて求める場合のみ）
4. 壁保有耐力・剛性
- ~~5. 柱保有耐力・剛性 （伝統的構法のみ）~~
6. 保有耐力・低減係数
7. 偏心率計算表
8. 偏心率計算表（明細）
9. 平均床倍率計算表

精密診断法1平面図

精密診断法1平面図(壁材種表示)

精密診断法1平面図(平均床倍率)

注意事項

- ホームズ君「耐震診断Pro」は、一般財団法人日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価制度において、『2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法』の“一般診断法”および“精密診断法1”に準拠しているとして、評価書（評価番号：P評価12-改3-W）の交付を受けました。なお、ホームズ君「耐震診断Pro」の全機能がプログラム評価の対象ではありませんのでご注意ください。本プログラム評価の適用範囲は下記の通りとなっております。

▼評価対象

「一般診断法」、「精密診断法1」

▼評価対象外

「地震被害想定3次元CG」、「補強ナビ」、「保有水平耐力計算」、「限界耐力計算」、「柱頭柱脚金物算定」、「基準法壁量計算」、「壁の配置」、「梁・桁断面算定」、「プレゼンボード」、「省エネ」

【プログラム評価とは】

「木造住宅耐震診断プログラム評価」とは、一般財団法人日本建築防災協会が実施している制度です。

木造住宅の耐震診断において、基準として広く用いられている『木造住宅の耐震診断と補強方法』が2004年7月に改訂され、診断方法が精緻化されたこともあり、診断プログラムソフトを用いられることが多くなったことを受け、本制度が創設されました。

評価にあたっては、学識経験者・技術者で構成する「木造住宅耐震診断プログラム評価委員会」（委員長 坂本功 東京大学名誉教授）が設置され、耐震診断基準書の解釈やプログラムでの計算処理が正確に行われているか、販売体制、保守サポート体制など、製品のご提供に関しても、詳細な審査が行われました。

- ・ 本ソフトウェアは、一般財団法人 日本建築防災協会発行の2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の精密診断法1に準拠した結果を出力しています。
- ・ 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の精密診断法は、一般診断法において、補強が必要と判定された場合に、補強の要否の最終的な診断を行うことを目的としています。
- ・ 2012年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」では診断の対象とする地震を、建物がその耐用年数の間にごくまれに遭遇するかもしれない大地震動としています。
- ・ 地震被害想定3次元CGは、“精密診断法1”による評点を用いて住宅の耐震性能を表現しておりますが、実際の地震に遭遇したときの倒壊状況を正確に表現しているわけではありません。このため、地震被害想定3次元CGでは結果が過大に表現される場合があります。
- ・ 本ソフトの診断結果に問題がなくても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1. 総合評価-(1)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

建物概要

調査日	2025年07月14日	診断者	
建物コード	018201	建築地	香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17
建物名	香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17	建物用途	住宅
		備考	
竣工年月	1970年(昭和45年)	多雪区域区分	一般 係数 0
築年数	築10年以上	地震地域係数Z	0.90 係数 0.90
構法	在来軸組構法	建物重量	非常に重い建物(診断者により部分的に変更)
外壁材種	耐力無	建物構造	木造
外壁材基準耐力	0.00 (kN/m)	軟弱地盤割増	軟弱地盤ではない。 係数 1.0
2階床面積	60.72㎡ (18.37坪)	地盤種別	第2種地盤
1階床面積	113.09㎡ (34.21坪)	基礎仕様	Ⅲ ひび割れのある無筋コンクリート基礎(部分的に変更)
階高	1階:2600mm 2階:2970mm	必要耐力計算方法	建築基準法施行令に準じて求める方法
2階短辺長さ	4m以上 6m未満	必要耐力割増	1階:1.00 2階:1.00
1階短辺長さ	6m以上		

水平構面仕様

※部分的な変更あり(9. 平均床倍率計算表を参照)

部 位	仕 様	床倍率
2階 屋根下地	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20
2階 桁梁構面	火打ち無し	0.00
2階 床下地	幅180杉板12mm以上、根太@340以下落し込み又は半欠き、N50@150以下	0.39
1階 屋根下地	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20
1階 桁梁構面	火打ち無し	0.00

各部の劣化度、接合部仕様

劣化度

劣化無し	部分的な劣化	著しい劣化
139箇所	0箇所	0箇所

柱頭・柱脚接合部の仕様

I)平成12建告1460号に適合する仕様	II)3kN以上(羽子板ボルト、山形プレート等)	Ⅲ、Ⅳ)3kN未満(短ほど差し、かすがい打)
0箇所	0箇所	94箇所

木製筋かい接合部の仕様

所定の金物	2.0倍用金物以上(筋かいプレートBP-2)	1.5倍用金物(筋かいプレートBP)	釘打ち(2-N75程度)以下
0箇所	0箇所	0箇所	6箇所

1. 総合評価-(2)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

各部の評価

①地盤の崩壊等			選択	
敷地が傾斜地で、敷地内に盛り土、切り土部分がある。				
建物周囲に、1.5m以上の擁壁がある。				
付近は液状化の可能性があると言われている地域である。				
田畑の造成地で、造成後5年以内である。				
河川・湖沼・池などの埋立地である。				
スウェーデン式サウンディング試験等で、地耐力30kN/m ² 以下の層が3m以上ある。				
②基礎の破損・亀裂等				
地盤の種類	杭基礎、布基礎、べた基礎		玉石、石積み、ブロック基礎など	
	鉄筋が入っている	鉄筋が入っていない		
良い・普通地盤	安全である。	● ひび割れが入る恐れがある。	玉石などが移動したり、傾く可能性がある。	
悪い地盤	ひび割れが入る恐れがある。	亀裂が入る恐れがある。	玉石などが移動したり、傾く可能性がある。	
非常に悪い地盤	ひび割れが入る恐れがある。 住宅が傾く可能性がある。	大きな亀裂が入る恐れがある。 住宅が傾く可能性が高い	玉石などが移動したり、不陸が生じる。 住宅が傾く可能性が高い。	
③水平構面(床や屋根)の損傷			選択	
平面形に凹凸が多い。			●	
2階又は3階が荒板などの床で、住宅幅の1/2以上の大きな吹き抜けがある。				
短辺が4mを超える大きな吹き抜けがある。				
2階の直下に壁がない外周壁が2面以上ある。(ただし、枠組壁工法の場合を除く)				
部分2階建てで、2階の直下部分に壁が少ない。				
④柱の折損(*伝統的構法の場合のみ)			本数	
問題となる柱の本数			—	
⑤横架材接合部の外れ			選択	
12畳以上の大きな部屋がある。				
母屋部分より、下屋部分に壁が多い。				
羽子板ボルトなどの横架材接合部に補強金物がない。				
⑥屋根葺き材の落下の可能性				
屋根葺き材の仕様			損傷の可能性	選択
瓦等	棟瓦	補強棟	脱落の可能性は小さい	
		それ以外	脱落の可能性が大きい	●
	平瓦	全てを留めつけ	安全です	
		3～4段毎の留めつけ	一応安全です	
		留めつけなし	脱落の可能性がある	●
金属板葺き			安全です	

その他の問題報告

部 位	所 見
①地盤の崩壊等	特に問題なし
②基礎の破損・亀裂等	特に問題なし
③水平構面(床や屋根)の損傷	特に問題なし
④柱の折損 (伝統構法のみ)	—
⑤横架材接合部の外れ	特に問題なし
⑥屋根葺き材の落下	特に問題なし

1. 総合評価-(3)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

上部構造評点 = 保有耐力(edQu) / 必要耐力(Qr)

階	方向	壁耐力 合計 (kN) Qu	剛性率 低減 Fs	偏心率・ 床仕様 低減Fe	保有耐力 (kN) edQu	必要耐力 (kN) Qr	評点 edQu/Qr	グラフ 0.7 1.0 1.5		
2	X	4.57	1.00	1.000	4.57	41.87	0.10			
	Y	11.89	1.00	1.000	11.89		0.28			
1	X	3.87	0.83	0.698	2.24	82.56	0.02			
	Y	8.05	0.72	0.400	2.31		0.02			

<地震被害想定3次元CG>



総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点 のうち最小の値	評点	判定
0.02	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

<その他注意事項>

全体的に開口が多く耐力要素のある壁が少ないです。(1,2階とも全体的に少なく、また1階南西側は配置バランスもよくないです。)外壁材の錆びや割れ・剥落、樋の外れ、内装材の水浸み痕、基礎の亀裂等の劣化があります。全体的に配置バランスの良い耐力壁の増設(筋交いや構造用合板で補強)と劣化の改修をお勧めします。

2. 上部構造評点

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁耐力 合計 (kN) Qu	剛性率 低減 Fs	偏心率・ 床仕様 低減Fe	保有耐力 (kN) edQu	必要耐力 (kN) Qr	評点 edQu/Qr	グラフ 0.7 1.0 1.5	判定
2	X	4.57	1.00	1.000	4.57	41.87	0.10		× 倒壊する可能性が高い
	Y	11.89	1.00	1.000	11.89		0.28		× 倒壊する可能性が高い
1	X	3.87	0.83	0.698	2.24	82.56	0.02		× 倒壊する可能性が高い
	Y	8.05	0.72	0.400	2.31		0.02		× 倒壊する可能性が高い

必要耐力 (Qr) = 支持重量 × 層せん断力係数 × 調整係数 × 地盤割増 × 必要耐力割増

(建築基準法施行令に準じた方法)

階	支持重量 (kN) Wi	地震地域 係数 Z	振動特性 係数 Rt	層せん断 力分布 係数 Ai	標準 せん断力 係数 C0	調整 係数	地盤割増 β	必要耐力 割増	必要耐力 Qr
2	178.90	0.90	1.00	1.30	1.0	0.2	1.0	1.00	41.87
1	458.62	0.90	1.00	1.00	1.0	0.2	1.0	1.00	82.56

- ①【支持重量 Wi】 >>> 詳細 帳票 3. 建物重量の計算
 ②【地震地域係数 Z】 告示1793号に定められた地域係数(多くの地域が1.00)
 ③【振動特性係数 Rt】 告示1793号に定められた計算式による、
 建物の固有周期と地盤の種類によって求められる。
 $R_t = 1$ (T<Tcの場合)
 $R_t = 1 - 0.2 \times (T/T_c - 1)^2$ (Tc<=T<2Tcの場合)
 $R_t = 1.6 \times T_c / T$ (2Tc<=Tの場合)
 ④【層せん断力分布係数 Ai】 $A_i = 1 + (1/\sqrt{\alpha_i - \alpha_i}) \times 2T / (1+3T)$
 ⑤【標準せん断力係数 C0】 令第88条に規定する定数 1.0
 ⑥【調整係数】 大地震動時の地震力と耐力要素の評価値を整合させるための係数 0.2
 ⑦【地盤割増 β 】 軟弱な地盤 -- 1.5 それ以外 -- 1.0
 ⑧【必要耐力割増】 診断者の判断により荷重や床面積を割増して考慮するための係数。

Tc: 地盤の種類によって決まる値
 第1種地盤 0.4
 第2種地盤 0.6
 第3種地盤 0.8
 T: 建物の固有周期
 $T = 0.03 \times \text{建物の高さ (一般木造の場合)}$
 $T = (0.02 + 0.01\alpha) \times \text{建物の高さ (混構造の場合)}$
 α : 木造部分の高さの合計高さに対する比
 α_i : 重量比
 (当該階より上にある層の重量)
 $\alpha_i = \frac{\text{当該階より上にある層の重量}}{\text{1階より上にある層の重量}}$

保有耐力 (edQu) = 保有耐力(修正前) × 剛性Fs × 偏心率と床仕様による低減係数Fe

階	方向	保有耐力(修正前) (kN) 無開口壁耐力+有開口壁耐力 Qu	剛性率による低減係数 Fs	偏心率と床仕様による 低減係数 Fe	保有耐力 (kN) edQu
2	X	4.57	1.00	1.000	4.57
	Y	11.89	1.00	1.000	11.89
1	X	3.87	0.83	0.698	2.24
	Y	8.05	0.72	0.400	2.31

- ①保有耐力(修正前) * 在来軸組構法・枠組壁工法に対応した算出による
 「基準耐力Fw」「有効長さL」「開口低減係数Ko」「その他の低減係数」の積の総和
 無開口壁耐力は、開口低減係数=1.0として算出

>>>詳細 帳票 4. 壁保有耐力・剛性 - イ

- ②【剛性率による低減係数】(Fs)

木造の場合は、ほとんどの場合1.0。必要耐力、剛性より算定する。

>>> 詳細 帳票 6. 保有耐力 低減係数 - ハ

- ③【偏心率と床仕様による低減係数】(Fe)

偏心率0.15を超えると低減あり。

>>> 詳細 帳票 6. 保有耐力 低減係数 - ニ

3. 建物重量の計算

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

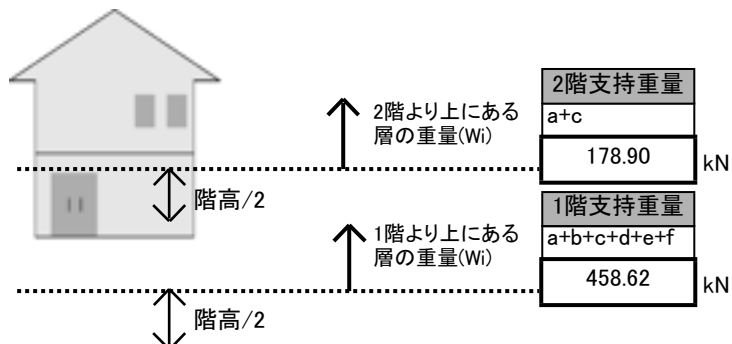
(建築基準法施行令に準じた方法)

支持重量 (Wi)

a) 2階屋根重量	c) 2階上壁重量
145.73	33.17

d) 2階下壁重量	f) 2階床・積載重量
33.17	72.87

b) 1階屋根重量	e) 1階上壁重量
119.96	53.72



各部の重量

屋根重量 = (GYn+GS) × (S1', S2)

※面積当たり積雪荷重は、積雪深1mにつき1.3(kN/m²)

階	(	面積当たり 屋根荷重① (kN/m ²)GYn	+	面積当たり 積雪荷重 (kN/m ²)GS	) ×	各階 屋根直下面積 (m ²)S1', S2	=	各階屋根 重量 (kN)	
2		2.40				60.72		145.73	a
1		2.40		0.00		49.98		119.96	b

壁重量 = (GK/2 × α) × (S1, S2)

階	(	面積当たり 壁荷重② (kN/m ²)GK	/2 ×	形状 割増 α	) ×	各階 床面積 (m ²)S1, S2	=	壁重量 (kN)	
2階上		0.95		1.15		60.72		33.17	c
2階下						60.72		33.17	d
1階上		0.95		1.00		113.09		53.72	e

床・積載重量 = GYk × S2

階		面積当たり 床・積載荷重③ (kN/m ²)GYk	×	2階 床面積 (m ²)S2	=	2階床・積載 重量 (kN)	
2		1.20		60.72		72.87	f

形状割増係数 α (壁荷重割増用)

短辺長さ	4.0m未満	4.0~6.0m	6.0m以上
係数	1.3	1.15	1.0

建物の重さと各部の面積当たり壁重量の対応表

	屋根	壁	床・積載
軽い建物	0.95	0.95	1.20
重い建物	1.30	1.40	1.20
非常に重い建物	2.40	1.65	1.20

床面積あたりの荷重表

階	v) 屋根荷重 (kN/m ²) ①
2	2.40
1	2.40

階	w) 外壁荷重 (kN/m ²)	+	x) 内壁荷重 (kN/m ²)	=	内外壁荷重 (kN/m ²) ②
2	0.75		0.20		0.95
1	0.75		0.20		0.95

階	y) 床荷重 (kN/m ²)	+	z) 積載荷重 (kN/m ²)	=	床・積載荷重 (kN/m ²) ③
2	0.60		0.60		1.20

※診断者により部分的に変更された箇所は網掛けで表示

精密診断法1
現状

4. 壁保有耐力・剛性(1階X方向)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数					保有 耐力	保有 剛性
			面1仕様	軸組仕様		土塗壁等	面2仕様	合計		開口 形状	一体 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko		基礎 仕 様	接合 仕 様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw			
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw												
1	2	1.36	422	-	-	-	424	0.80	70	窓	-	1.36	0.294	1.36	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0	
5	6	0.67	422	-	-	-	424	0.80	70	窓	-	0.67	0.597	0.67	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0	
7	8	0.85	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	-	0.85	0.470	0.85	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
12	13	0.53	△424	-	-	-	△424	0.00	0	無	-	-	1.000	0.53	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
13	14	0.83	424	-	-	-	424	1.60	140	戸	-	0.83	0.240	0.83	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0	
20	21	0.95	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	0.95	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.76	66	
21	22	0.95	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	0.95	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.76	66	
22	23	0.95	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	0.95	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.76	66	
23	24	0.67	424	-	-	-	320	0.80	70	無	-	-	1.000	0.67	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.53	46	
-	25	1.64	320	-	-	-	320	△0.00	△0	無	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0	
25	-	0.91	320	-	-	-	320	△0.00	△0	無	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0	
27	28	1.06	424	-	-	-	320	0.80	70	窓	-	1.06	0.377	1.06	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	△0.00	△0	
29	30	2.85	424	-	-	-	422	0.80	70	戸	○1	5.70	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	△0.00	△0	
30	31	2.85	422	-	-	-	422	0.00	0	戸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
31	32	0.67	320	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.67	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0	
36	37	0.67	320	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.67	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.53	46	
42	43	2.85	422	-	-	-	320	0.00	0	戸	○2	5.70	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0	
43	44	2.85	422	-	-	-	320	0.00	0	戸	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
44	45	0.67	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	0.67	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.53	46	
46	47	0.91	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0	
48	49	1.82	320	-	-	-	422	0.00	0	戸	○3	7.23	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0	
49	50	2.85	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50	51	2.56	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
51	52	0.29	320	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.29	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0	
52	53	0.67	422	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.67	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0	
-	54	0.96	320	-	-	-	320	△0.00	△0	無	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0	
55	56	0.91	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	-	0.91	0.219	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
56	57	0.96	320	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.96	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
59	60	3.65	320	-	-	-	422	0.00	0	戸	-	3.65	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
60	61	0.85	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.85	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
62	-	0.85	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	○4	1.87	0.106	1.87	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	
-	63	1.01	320	-	-	-	320	0.00	0	無→戸	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
64	65	1.87	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	-	1.87	0.213	1.87	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0	

壁基準耐力 $F_w = \text{面1基準耐力} + \text{面2基準耐力} + \text{軸組基準耐力} \times \text{筋かい接合低減} + \text{土塗壁基準耐力}$ (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。
 一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行(安全側となる仕様)で計算。
 有効長さ $L = \text{長さ}$ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)
 保有耐力 $= F_w \times L \times K_o \times \min(K_j, dK_w)$ 保有剛性 $= S_w \times L \times K_o \times \min(K_j, dK_w)$

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種
 太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種
 * : 大壁、胴縁下地の面
 # : 釘による補正有りの面
 ▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁
 △ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁(耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁
 △ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁(開口壁として扱われる)
 ▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁(開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

1階X方向合計	3.87	336
	イ	ロ

精密診断法1
現状

4. 壁保有耐力・剛性(1階Y方向)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性			
			面1仕様		軸組仕様		土塗壁等		面2仕様		合計		開口 形状		一体 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕様			接合 仕様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
7	11	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0			
11	15	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0			
15	33	1.94	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	○1	4.67	0.133	3.00	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0			
33	38	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	▼無	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
38	40	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
40	46	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
-	16	0.45	320	-	-	-	320	0.00	0	無→戸	○2	2.85	0.070	2.85	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
34	-	1.48	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
34	39	0.91	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
26	-	0.45	320	-	-	-	320	△0.00	△0	無	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0			
17	25	0.45	320	-	-	-	320	0.00	0	窓	-	0.45	0.888	0.45	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
1	9	0.30	422	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.30	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.24	21			
9	12	0.91	320	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.72	63			
12	18	0.91	320	-	-	-	424	0.80	70	戸	-	0.91	0.219	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.15	13			
18	27	0.91	320	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.72	63			
28	35	1.03	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	○3	3.76	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
35	41	1.82	320	-	-	-	320	0.00	0	窓	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
41	48	0.91	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
2	14	1.21	424	-	-	-	424	1.60	140	窓	-	1.21	0.330	1.21	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	△0.00	△0			
29	42	2.85	320	-	-	-	422	0.00	0	戸	○4	6.59	0.066	3.00	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
42	49	0.91	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
49	58	2.83	422	-	-	-	320	0.00	0	戸	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
58	59	0.45	422	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.45	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0			
20	30	0.91	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.72	63			
30	43	2.85	422	-	-	-	422	0.00	0	戸	-	2.85	0.070	2.85	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
55	-	1.92	320	-	-	-	320	△0.00	△0	戸	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	0			
55	61	1.36	320	-	-	-	320	0.00	0	▼無	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
61	62	0.81	422	-	-	-	320	0.00	0	戸	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
62	64	1.60	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
-	51	0.75	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	○6	1.92	0.104	1.92	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
-	-	0.48	320	-	-	-	320	0.00	0	無→戸	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
56	-	0.67	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
44	52	0.91	320	-	-	-	422	0.00	0	戸	-	0.91	0.219	0.91	Ⅲ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
6	10	1.06	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	1.06	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.84	74			
10	24	1.06	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	1.06	Ⅱ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.84	74			
24	32	0.91	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0			
32	37	1.42	320	103	1.0	-	422	1.90	390	無	-	-	1.000	1.42	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	2.69	553			
37	45	1.42	424	-	-	-	422	0.80	70	無	-	-	1.000	1.42	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	1.13	99			
45	53	0.91	422	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0			
53	54	0.75	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	○7	4.09	0.133	3.00	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
54	57	1.16	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
-	57	0.45	320	-	-	-	422	0.00	0	無→窓	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。
 一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行 (安全側となる仕様) で計算。
 有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)
 保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

1階Y方向合計	8.05	1.023
	イ	ロ

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

4. 壁保有耐力・剛性(1階Y方向)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性
			面1仕様	軸組仕様		土塗壁等	面2仕様	合計		開口 形状	一体 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko		基礎 仕 様	接 合 仕 様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw		
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw											
63	-	1.72	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
63	65	1.60	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	1.60	Ⅲ	Ⅳ	*1.00	*1.00	0.00	0

壁基準耐力 F_w = 面1基準耐力 + 面2基準耐力 + 軸組基準耐力 × 筋かい接合低減 + 土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。
 一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行 (安全側となる仕様) で計算。
 有効長さ L = 長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)
 保有耐力 $= F_w \times L \times K_o \times \min(K_j, dK_w)$ 保有剛性 $= S_w \times L \times K_o \times \min(K_j, dK_w)$

1階Y方向合計	8.05	1.023
	イ	ロ

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

4. 壁保有耐力・剛性(2階X方向)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様							開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性
			面1仕様	軸組仕様		土塗壁等	面2仕様	合計		開口 形状	一休 開口 番号	開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko		基礎 仕 様	接合 仕 様	接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw		
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw											
1	2	0.91	424	103	1.0	-	320	2.70	460	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	0.63	1.00	1.54	263
2	3	0.76	422	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.76	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.60	53
3	4	2.85	424	-	-	-	320	0.80	70	窓	○1	10.37	0.133	3.00	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.31	27
4	5	3.76	424	-	-	-	320	0.80	70	窓	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	6	3.76	424	-	-	-	320	0.80	70	窓	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	7	0.67	424	-	-	-	320	0.80	70	無	-	-	1.000	0.67	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.53	46
9	10	0.76	424	-	-	-	424	1.60	140	無	-	-	1.000	0.76	-	Ⅳ	0.82	1.00	0.99	87
11	12	0.67	320	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.67	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0
15	16	0.76	424	-	-	-	320	0.80	70	無	-	-	1.000	0.76	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.60	53
16	17	2.85	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	○2	10.37	0.066	3.00	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0
17	18	3.76	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	19	2.73	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	20	1.03	320	-	-	-	320	0.00	0	窓	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	21	0.67	320	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	0.67	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0
22	23	0.91	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	-	0.91	0.439	0.91	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0
24	25	3.76	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	○3	8.19	0.133	3.00	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0
25	26	3.47	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	-	0.74	320	-	-	-	320	0.00	0	戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	27	0.21	320	-	-	-	320	0.00	0	無→戸	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	29	0.96	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.96	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)
 一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

2階X方向合計	4.57	529
	イ	ロ

精密診断法1
現状

4. 壁保有耐力・剛性(2階Y方向)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

柱1	柱2	長さ (m)	壁の仕様								開口情報				有効 長さ (m) L	低減係数				保有 耐力	保有 剛性		
			面1仕様		軸組仕様		土塗壁等		面2仕様		合計		開口 形状	一体 開口 番号		開口幅 (m)	開口 低減 係数 Ko	基礎 仕 様	接合 仕 様			接合部 低減 係数 Kj	劣化 低減 係数 dKw
			面1 材種 コード	軸組 種類 コード	筋かい 接合 低減	土塗壁等 種類 コード	面2 材種 コード	基準 耐力 Fw	基準 剛性 Sw														
1	8	1.88	422	103'	1.0	-	320	1.90	390	無	-	-	1.000	1.88	-	Ⅲ	0.73	1.00	2.60	535			
8	14	1.88	422	103'	1.0	-	320	1.90	390	無	-	-	1.000	1.88	-	Ⅲ	0.73	1.00	2.60	535			
14	22	0.91	422	-	-	-	320	0.00	0	窓	-	0.91	0.439	0.91	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0			
9	13	0.97	320	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.97	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.77	67			
13	15	0.91	320	-	-	-	424	0.80	70	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.72	63			
3	10	1.88	424	-	-	-	320	0.80	70	戸	○1	3.76	0.066	3.00	-	Ⅳ	1.00	1.00	△0.00	△0			
10	16	1.88	424	-	-	-	320	0.80	70	戸	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
26	28	1.41	422	-	-	-	320	0.00	0	無	-	-	1.000	1.41	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			
7	12	1.88	320	103'	1.0	-	422	1.90	390	無	-	-	1.000	1.88	-	Ⅲ	0.73	1.00	2.60	535			
12	21	1.88	320	103'	1.0	-	422	1.90	390	無	-	-	1.000	1.88	-	Ⅲ	0.73	1.00	2.60	535			
21	27	0.91	320	-	-	-	422	0.00	0	無	-	-	1.000	0.91	-	Ⅲ	1.00	1.00	0.00	0			
27	29	1.41	320	-	-	-	422	0.00	0	窓	-	1.41	0.283	1.41	-	Ⅳ	1.00	1.00	0.00	0			

壁基準耐力 Fw=面1基準耐力+面2基準耐力+軸組基準耐力×筋かい接合低減+土塗壁基準耐力 (基準剛性は耐力を剛性と読替)

一体開口番号 同じ番号が付いている壁は一体の開口部として評価する。

一体の開口部の保有耐力、保有剛性は○付きの行(安全側となる仕様)で計算。

有効長さ L=長さ (ただし開口壁の場合は一体開口Noが同じ壁の長さ合計とし、開口幅 > 3.0mの場合は上限3.0mとして評価)

保有耐力 =Fw×L×Ko×min(Kj, dKw) 保有剛性 =Sw×L×Ko×min(Kj, dKw)

【材種コードの表記について】

網掛け : 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

太枠囲み : 補強計画で追加、変更された材種

* : 大壁、胴縁下地の面

: 釘による補正有りの面

▲ : 高さによる低減有りの筋かい・面・土塗壁

△ : 長さ90cm未満の筋かいおよび60cm未満の面、土塗壁 (耐力・剛性は0となる)

【基準耐力、基準剛性の表記について】

: 筋かい・面・土塗壁のいずれかの基準耐力、基準剛性に補正が掛かっている壁

△ : 端部に柱がないために耐力、剛性0と扱われる壁

【開口形状の表記について】

無→戸 : 開口壁との間に柱が無い無開口壁 (開口壁として扱われる)

▼ : 開口壁に挟まれた耐力評価できない無開口壁 (開口壁として扱われる)

【接合低減係数および劣化低減係数の表記について】

* : 直上に他階が乗っていないため平屋の低減係数を使用

【保有耐力、保有剛性の表記について】

△ : 耐力を持つ無開口壁に接していないために耐力・剛性を算定できない開口壁

2階Y方向合計	11.89	2,270
	イ	ロ

4. 壁保有耐力・剛性(係数表)-(1) 日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

使用壁材一覧

コード	材種	基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad./m)
103'	筋かい(30×90)(釘打ち)	1.90	390
320	耐力無	0.00	0
422	耐力無	0.00	0
424	木ずり	0.80	70

※ 壁材種設定により入力者が任意に追加した材種は網掛けで塗られて表示。

※ 筋かい耐力壁はシングルの値を表示。ダブルの場合はシングルを2倍にした値を適用。

4. 壁保有耐力・剛性(係数表)-(2)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201
香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

係数表

筋かい接合低減係数表

筋かい金物等	筋かいの要素基準耐力(kN/m)		
	3.0未満	3.0~5.0	5.0以上
所定の金物	1.0	1.0	1.0
2.0倍用金物以上	1.0	0.9	0.8
1.5倍用金物	0.9	0.8	0.7
釘打ち(2-N75程度)以下	0.8	0.7	0.6

開口低減係数表

開口の種類	開口低減係数
窓型	0.4/L
掃き出し	0.2/L

※Lは開口幅(上限3.0m)

注)「窓型」: 窓開口のこと。垂れ壁・腰壁がある開口で、開口高さが概ね600mmから1200mm程度のもの。
「掃き出し」: ドアや掃き出しの開口のこと。垂れ壁がある開口で、垂れ壁高さが360mm以上のもの。

胴縁下地壁 耐力・剛性 修正

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準耐力は以下とする。

基準耐力(kN/m)	修正基準耐力(kN/m)	
	(1) 胴縁をN75@200以下	(2) (1)の仕様以外
2以下	基準耐力×1.0	基準耐力×3/4
2超 4以下	基準耐力× $(-\frac{1}{8} \cdot \text{基準耐力} + 1.25)$	1.5
4超	3	

大壁で胴縁下地の壁面の修正基準剛性は以下とする。

(1) 胴縁をN75@200以下			(2) (1)の仕様以外		
1	1	1	1	1	1
修正基準剛性	基準剛性	800	修正基準剛性	基準剛性	500

柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数

壁基準耐力が表の数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補間して算出する。
有開口壁の場合は、壁基準耐力は開口低減係数 K_o を乗じたものとする。

2階建ての2階、3階建ての3階

壁基準耐力(kN/m)		2.0	3.0	5.0	7.0
接合部仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0
	II	1.0	0.8	0.65	0.5
	III	0.7	0.6	0.45	0.35
	IV	0.7	0.35	0.25	0.2

2階建ての1階、3階建ての1階及び3階建ての2階

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部仕様	I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	II	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	IV	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

※3階建ての2階の場合は、基礎の種類にかかわらず基礎仕様Iの欄を使用する。

平屋建て(2階建ての下屋部分を含む)

壁基準耐力(kN/m)		2.0			3.0			5.0			7.0		
基礎仕様		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
接合部仕様	I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
	II	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
	IV	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3

劣化低減係数表(壁)

最上階の場合(下屋部分を含む)

劣化の程度	壁基準耐力(kN/m)			
	2.5未満	2.5~4.0	4.0~6.0	6.0以上
無し	1.0	1.0	1.0	1.0
部分的な劣化	0.85	0.7	0.6	0.6
著しい劣化	0.7	0.35	0.25	0.2

※壁基準耐力が1.0未満の場合は低減係数1.0とする。

最上階以外の場合

劣化の程度	壁基準耐力(kN/m)			
	2.5未満	2.5~4.0	4.0~6.0	6.0以上
無し	1.0	1.0	1.0	1.0
部分的な劣化	1.0	0.9	0.8	0.8
著しい劣化	1.0	0.8	0.7	0.6

総合重心を求める際の係数

$\alpha 1$	(1階外壁荷重+1階内壁荷重)/2+1階屋根荷重	2.88
$\alpha 2$	2階外壁荷重+2階内壁荷重+2階床荷重+2階積載荷重+2階屋根荷重-1階屋根荷重	2.15

※式の中の荷重はすべて床面積当たりの荷重(kN/m²)
(「3. 建物重量の計算」を参照)

6. 保有耐力 低減係数

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

剛性率による低減係数(Fs)

①			②			③		⑤		⑥	
階	方向	必要耐力 Qr	/	剛性 Sw	=	層間変形角	層間変形角 の逆数 rs	剛性率 Rs	⇒	剛性低減 Fs	
2	X	41.87		529		0.07915	12.63	1.51		1.00	
	Y			2,270		0.01845	54.20	1.62		1.00	
1	X	82.56		336		0.24572	4.06	0.48		0.83	
	Y			1,023		0.08071	12.39	0.37		0.72	
						(X方向平均)	8.34	④ rs	ハ		
						(Y方向平均)	33.29				

- ①【必要耐力】 Qr >>>詳細 帳票4.、帳票5. - イ、ロ
 ②【剛性】 Sw >>>詳細 帳票4.、帳票5. - イ、ロ
 ③【層間変形角】 = 必要耐力 / 剛性
 ④【層間変形角の逆数の相加平均】 $\bar{rs}$ = ③の逆数の相加平均
 ⑤【剛性率】 Rs = 層間変形角の逆数 rs / 層間変形角の逆数の相加平均 $\bar{rs}$
 ⑥【剛性率による低減係数】 Fs

式Fs

剛性率	剛性低減 Fs
0.6以上	1.0
0.6以下	$1.0 / (2.0 - Rs / 0.6)$

偏心率と床仕様による低減係数(Fe)

①			②		
階	方向	偏心率 Re	平均床倍率	⇒	偏心率と床仕様 による低減係数 Fe
2	X	0.14	0.20		1.000
	Y	0.08			1.000
1	X	0.28	0.23		0.698
	Y	1.17			0.400
					二

偏心率と床仕様による低減係数を求める表

偏心率 平均床倍率	Re<0.15	0.15≤Re<0.30	0.30≤Re<0.45	0.45≤Re<0.60	0.60≤Re
1.0以上	1.00	$1/(3.33Re+0.5)$	$(3.3-Re)/(3*(3.33Re+0.5))$	$(3.3-Re)/6$	0.450
0.5以上1.0未満			$(2.3-Re)/(2*(3.33Re+0.5))$	$(2.3-Re)/4$	0.425
0.5未満			$(3.6-2Re)/(3*(3.33Re+0.5))$	$(3.6-2Re)/6$	0.400

①【偏心率】 >>>詳細 帳票7. 偏心率計算表

②【平均床倍率】 >>>詳細 帳票9. 平均床倍率計算表

7. 偏心率計算表

日付: 2025年07月19日 13:01:08

建物コード: 018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

要素名	部位別要素名	計算式	計算値
床面積 (㎡)	1階床面積	1階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	110.70
	2階床面積	2階外周内部の面積(必要耐力用の面積と異なる場合あり)	60.71
重心座標	1階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	7.22
	1階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 1\text{階床面積}$	7.79
	2階重心(X座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	6.49
	2階重心(Y座標)	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) / 2\text{階床面積}$	7.96
	総合重心(X座標) ※	$\{\alpha 1 \times \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + \alpha 2 \times \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} / (\alpha 1 \times 1\text{階床面積} + \alpha 2 \times 2\text{階床面積})$	7.01
	総合重心(Y座標) ※	$\{\alpha 1 \times \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + \alpha 2 \times \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} / (\alpha 1 \times 1\text{階床面積} + \alpha 2 \times 2\text{階床面積})$	7.84
耐震要素 (明細-い)	耐震要素(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性} \times \text{要素Y座標})$	3,202
	耐震要素(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性} \times \text{要素X座標})$	11,302
	耐震要素(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性} \times \text{要素Y座標})$	5,123
	耐震要素(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性} \times \text{要素X座標})$	13,718
剛性 (明細-あ)	剛性(1階X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性})$	336
	剛性(1階Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性})$	1,023
	剛性(2階X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性})$	529
	剛性(2階Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性})$	2,270
剛心座標	1階剛心(X座標)	耐震要素(1階Y方向) / 剛性(1階Y方向)	11.05
	1階剛心(Y座標)	耐震要素(1階X方向) / 剛性(1階X方向)	9.53
	2階剛心(X座標)	耐震要素(2階Y方向) / 剛性(2階Y方向)	6.04
	2階剛心(Y座標)	耐震要素(2階X方向) / 剛性(2階X方向)	9.68
偏心距離 (m)	1階偏心距離(X座標)	絶対値(1階剛心(X座標) - 総合重心(X座標))	4.04
	1階偏心距離(Y座標)	絶対値(1階剛心(Y座標) - 総合重心(Y座標))	1.69
	2階偏心距離(X座標)	絶対値(2階剛心(X座標) - 2階重心(X座標))	0.45
	2階偏心距離(Y座標)	絶対値(2階剛心(Y座標) - 2階重心(Y座標))	1.72
ねじり剛性 (明細-う)	1階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性} \times (\text{要素Y座標} - 1\text{階剛心(Y座標)})^2)$	665
	1階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性} \times (\text{要素X座標} - 1\text{階剛心(X座標)})^2)$	11,633
	1階ねじり剛性合計	1階ねじり剛性(X座標) + 1階ねじり剛性(Y座標)	12,298
	2階ねじり剛性(X方向)	$\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性} \times (\text{要素Y座標} - 2\text{階剛心(Y座標)})^2)$	805
	2階ねじり剛性(Y方向)	$\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性} \times (\text{要素X座標} - 2\text{階剛心(X座標)})^2)$	90,056
	2階ねじり剛性合計	2階ねじり剛性(X座標) + 2階ねじり剛性(Y座標)	90,861
弾力半径	1階弾力半径(X方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素X方向剛性})$)	6.04
	1階弾力半径(Y方向)	平方根(1階ねじり剛性合計 / $\Sigma(1\text{階各要素Y方向剛性})$)	3.46
	2階弾力半径(X方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素X方向剛性})$)	13.10
	2階弾力半径(Y方向)	平方根(2階ねじり剛性合計 / $\Sigma(2\text{階各要素Y方向剛性})$)	6.32
偏心率	1階偏心率(X方向)	1階偏心距離(Y座標) / 1階弾力半径(X方向)	0.28
	1階偏心率(Y方向)	1階偏心距離(X座標) / 1階弾力半径(Y方向)	1.17
	2階偏心率(X方向)	2階偏心距離(Y座標) / 2階弾力半径(X方向)	0.14
	2階偏心率(Y方向)	2階偏心距離(X座標) / 2階弾力半径(Y方向)	0.08

※総合重心を求める際の係数 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2 >> 4$ 。壁保有耐力・剛性(係数表)を参照

8. 偏心率計算表(明細)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

[1階X方向]

属性	柱1	柱2	A Y座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心Y座標 い/あ	E ねじり剛性 $B*(A-D)^2$
壁	1	2	12.49	0	0	9.53	0
壁	5	6	12.49	0	0	9.53	0
壁	7	8	12.19	0	0	9.53	0
壁	12	13	11.28	0	0	9.53	0
壁	13	14	11.28	0	0	9.53	0
壁	20	21	10.37	66	684	9.53	46
壁	21	22	10.37	66	684	9.53	46
壁	22	23	10.37	66	684	9.53	46
壁	23	24	10.37	46	477	9.53	32
壁	-	25	9.91	0	0	9.53	0
壁	25	-	9.91	0	0	9.53	0
壁	27	28	9.46	0	0	9.53	0
壁	29	30	9.46	0	0	9.53	0
壁	30	31	9.46	-	-	9.53	-
壁	31	32	9.46	0	0	9.53	0
壁	36	37	8.03	46	369	9.53	103
壁	42	43	6.61	0	0	9.53	0
壁	43	44	6.61	-	-	9.53	-
壁	44	45	6.61	46	304	9.53	392
壁	46	47	5.70	0	0	9.53	0
壁	48	49	5.70	0	0	9.53	0
壁	49	50	5.70	-	-	9.53	-
壁	50	51	5.70	-	-	9.53	-
壁	51	52	5.70	0	0	9.53	0
壁	52	53	5.70	0	0	9.53	0
壁	-	54	4.94	0	0	9.53	0
壁	55	56	3.78	0	0	9.53	0
壁	56	57	3.78	0	0	9.53	0
壁	59	60	2.41	0	0	9.53	0
壁	60	61	2.41	0	0	9.53	0
壁	62	-	1.60	0	0	9.53	0
壁	-	63	1.60	-	-	9.53	-
壁	64	65	0.00	0	0	9.53	0
				336	3,202		665
				あ	い		う

8. 偏心率計算表(明細)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

[1階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心X座標 い/あ	E ねじり剛性 $B*(A-D)^2$
壁	7	11	0.00	0	0	11.05	0
壁	11	15	0.00	0	0	11.05	0
壁	15	33	0.00	0	0	11.05	0
壁	33	38	0.00	-	-	11.05	-
壁	38	40	0.00	-	-	11.05	-
壁	40	46	0.00	-	-	11.05	-
壁	-	16	0.91	0	0	11.05	0
壁	34	-	0.91	-	-	11.05	-
壁	34	39	0.91	-	-	11.05	-
壁	26	-	1.64	0	0	11.05	0
壁	17	25	2.55	0	0	11.05	0
壁	1	9	3.46	21	73	11.05	1,209
壁	9	12	3.46	63	218	11.05	3,629
壁	12	18	3.46	13	45	11.05	748
壁	18	27	3.46	63	218	11.05	3,629
壁	28	35	4.52	0	0	11.05	0
壁	35	41	4.52	-	-	11.05	-
壁	41	48	4.52	-	-	11.05	-
壁	2	14	4.82	0	0	11.05	0
壁	29	42	6.34	0	0	11.05	0
壁	42	49	6.34	-	-	11.05	-
壁	49	58	6.34	-	-	11.05	-
壁	58	59	6.34	0	0	11.05	0
壁	20	30	9.19	63	579	11.05	217
壁	30	43	9.19	0	0	11.05	0
壁	55	-	10.84	0	0	11.05	0
壁	55	61	10.84	-	-	11.05	-
壁	61	62	10.84	-	-	11.05	-
壁	62	64	10.84	-	-	11.05	-
壁	-	51	11.75	0	0	11.05	0
壁	-	-	11.75	-	-	11.05	-
壁	56	-	11.75	-	-	11.05	-
壁	44	52	12.04	0	0	11.05	0
壁	6	10	12.71	74	941	11.05	203
壁	10	24	12.71	74	941	11.05	203
壁	24	32	12.71	0	0	11.05	0
壁	32	37	12.71	553	7,029	11.05	1,523
壁	37	45	12.71	99	1,258	11.05	272
壁	45	53	12.71	0	0	11.05	0
壁	53	54	12.71	0	0	11.05	0
壁	54	57	12.71	-	-	11.05	-
壁	-	57	12.71	-	-	11.05	-
壁	63	-	12.71	-	-	11.05	-
壁	63	65	12.71	0	0	11.05	0
				1,023	11,302		11,633
				あ	い		う

8. 偏心率計算表(明細)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

[2階X方向]

属性	柱1	柱2	A Y座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心Y座標 い/あ	E ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	2	10.37	263	2,727	9.68	125
壁	2	3	10.37	53	550	9.68	25
壁	3	4	10.37	27	280	9.68	12
壁	4	5	10.37	-	-	9.68	-
壁	5	6	10.37	-	-	9.68	-
壁	6	7	10.37	46	477	9.68	21
壁	9	10	8.49	87	739	9.68	123
壁	11	12	8.49	0	0	9.68	0
壁	15	16	6.61	53	350	9.68	499
壁	16	17	6.61	0	0	9.68	0
壁	17	18	6.61	-	-	9.68	-
壁	18	19	6.61	-	-	9.68	-
壁	19	20	6.61	-	-	9.68	-
壁	20	21	6.61	0	0	9.68	0
壁	22	23	5.70	0	0	9.68	0
壁	24	25	5.70	0	0	9.68	0
壁	25	26	5.70	-	-	9.68	-
壁	26	-	5.70	-	-	9.68	-
壁	-	27	5.70	-	-	9.68	-
壁	28	29	4.28	0	0	9.68	0
				529	5,123		805
				あ	い		う

8. 偏心率計算表(明細)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

[2階Y方向]

属性	柱1	柱2	A X座標	B 剛性 Sw	C 耐震要素 (剛性×座標) A*B	D 剛心X座標 い/あ	E ねじり剛性 $B * (A - D)^2$
壁	1	8	0.00	535	0	6.04	19,517
壁	8	14	0.00	535	0	6.04	19,517
壁	14	22	0.00	0	0	6.04	0
壁	9	13	0.91	67	61	6.04	1,763
壁	13	15	0.91	63	57	6.04	1,657
壁	3	10	1.67	0	0	6.04	0
壁	10	16	1.67	-	-	6.04	-
壁	26	28	11.75	0	0	6.04	0
壁	7	12	12.71	535	6,800	6.04	23,801
壁	12	21	12.71	535	6,800	6.04	23,801
壁	21	27	12.71	0	0	6.04	0
壁	27	29	12.71	0	0	6.04	0
				2,270	13,718		90,056
				あ	い		う

9. 平均床倍率計算表

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

平均床倍率の計算

1階天井レベル

部位	床倍率	面積 (㎡)	床倍率 × 面積
2階床	0.39	0.00	0.00
階段・吹抜	0.00	1.66	0.00
区画1	0.20	25.91	5.18
区画2	0.26	39.10	10.17
区画3	0.30	18.60	5.58
区画4	0.20	25.43	5.09
合計		110.70	26.01

①

②

1階平均床倍率
② ÷ ①

0.23

2階天井レベル

部位	床倍率	面積 (㎡)	床倍率 × 面積
屋根	0.20	0.00	0.00
区画1	0.20	60.71	12.14
合計		60.71	12.14

③

④

2階平均床倍率
④ ÷ ③

0.20

部位ごとの水平構面仕様明細

部位	構面	仕様	床倍率	合計
2階床	床	幅180杉板12mm以上、根太@340以下落し込み又は半欠き、N50@150以下	0.39	0.39
	桁梁	火打ち無し	0.00	
1階区画1、1階区画4、 2階区画1	屋根	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20	0.20
1階区画2	床	幅180杉板12mm以上、根太@500以下落し込み、N50@150以下	0.26	0.26
1階区画3	床	幅180杉板12mm以上、根太@340以下転ばし、N50@150以下	0.30	0.30
2階屋根	屋根	5寸勾配以下、幅180杉板9mm以上、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.20	0.20
	桁梁	火打ち無し	0.00	

精密診断法1
現状上部構造評点
0.02

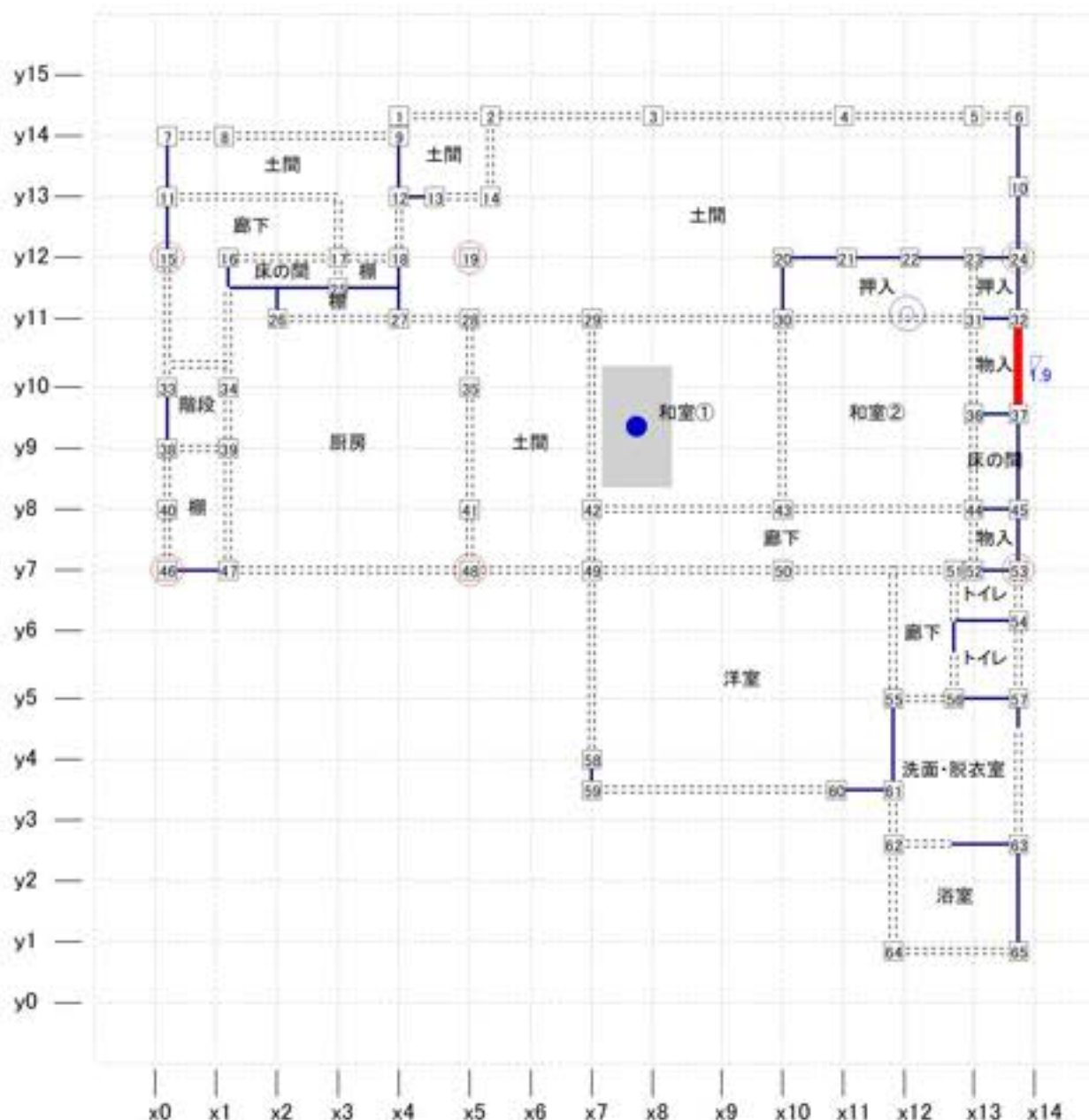
精密診断法1平面図

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

1階 評点 X方向:0.02 Y方向:0.02



縮尺 1/100

凡例

- 一般壁
- ⋯ 開口部
- 耐力壁
- バルコニー
- 小屋裏収納等
- オーバーハング
- 柱
- 通し柱
- 重心
- 剛心
- 偏心率0.15範囲(剛心が内側にあれば低減無し)
- 柱重:劣化部位
- △ 筋かいシングル
- △ 筋かいダブル
- 面材耐力壁
- 部分耐力壁
- 柱接合部 I, II

精密診断法1
現状

上部構造評点
0.02

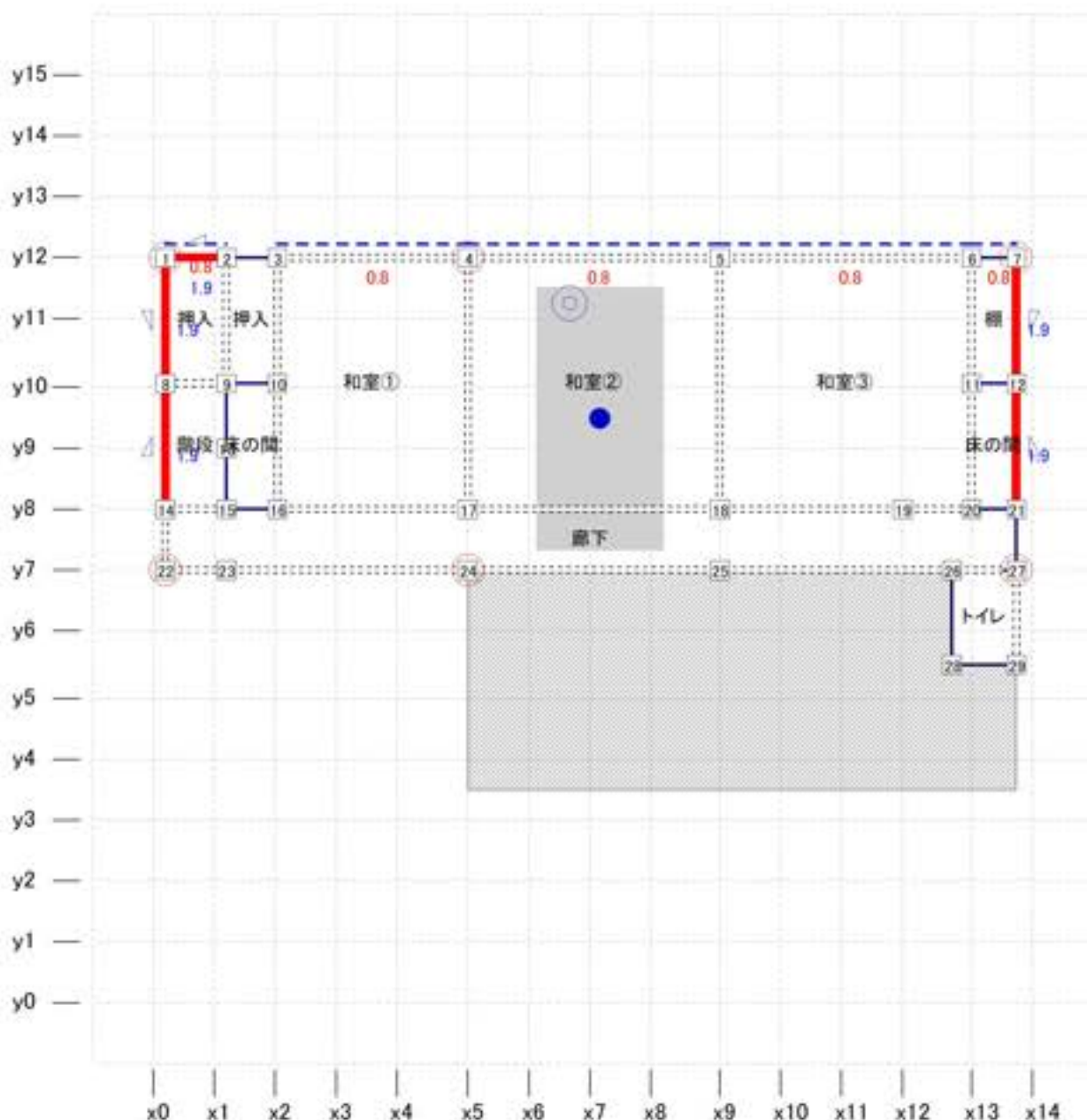
精密診断法1平面図

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

2階 評点 X方向:0.10 Y方向:0.28



縮尺 1/100

凡例

- 一般壁 (General Wall)
- 開口部 (Opening)
- 耐力壁 (Load-bearing Wall)
- バルコニー (Balcony)
- 小屋裏収納等 (Attic Storage, etc.)
- オーバーハング (Overhang)
- 柱 (Column)
- 通し柱 (Through Column)
- 重心 (Center of Gravity)
- 剛心 (Stiffness Center)
- 偏心率0.15範囲(剛心が内側にあれば低減無し) (Eccentricity rate 0.15 range (if stiffness center is on the inner side, no reduction))
- 軽重:劣化部位 (Weight: Deteriorated Part)
- 筋かいシングル (Single Reinforcement)
- 筋かいダブル (Double Reinforcement)
- 面材耐力壁 (Face Material Load-bearing Wall)
- 部分入力雑壁 (Partial Input Miscellaneous Wall)
- 柱接合部 I, II (Column Joint I, II)

精密診断法1

現状

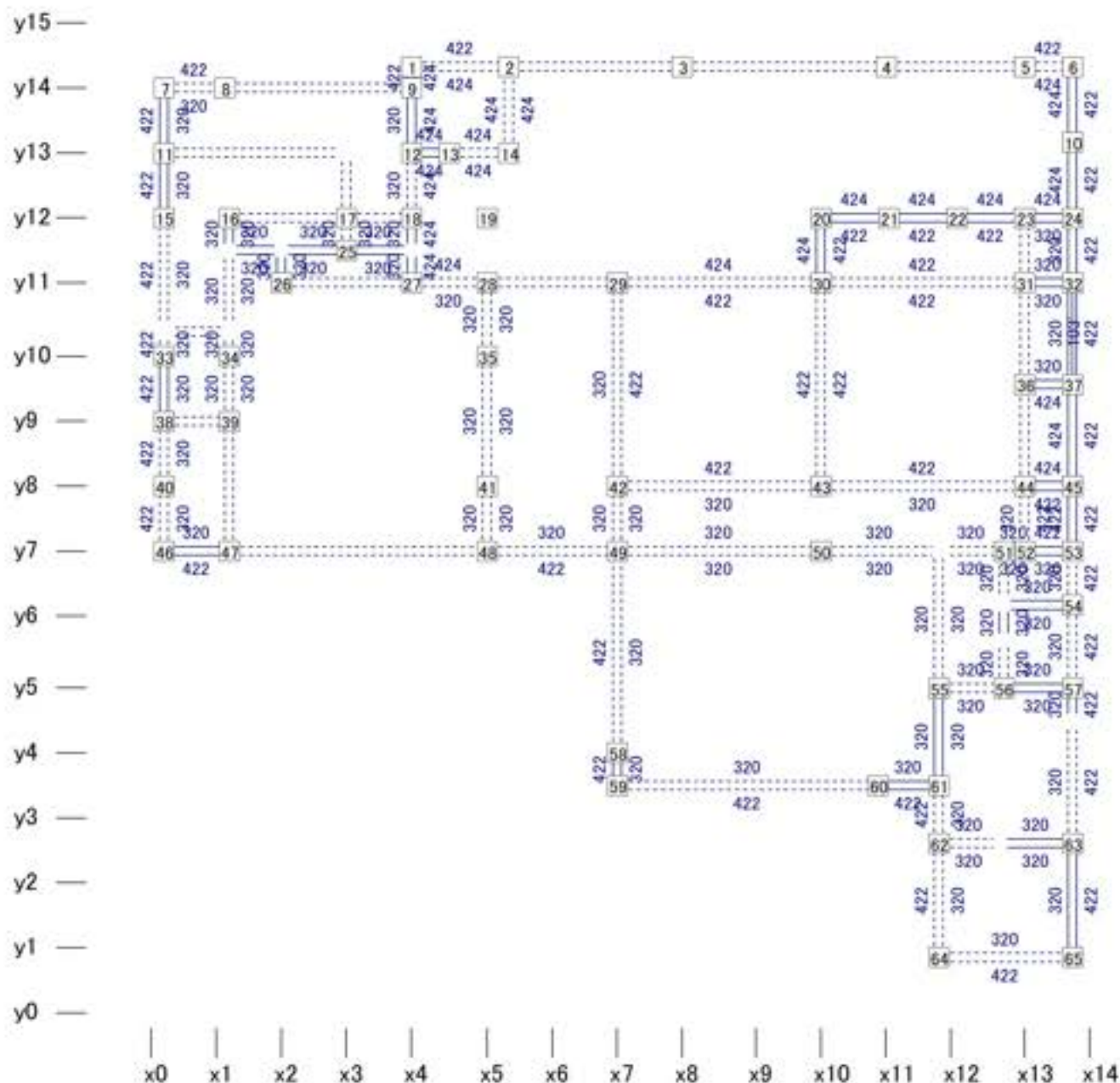
精密診断法1平面図(壁材種表示)

日付: 2025年07月19日 13:01:08

建物コード: 018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

1階



縮尺 1/90

※壁材種コードに「-1, -2, ...」が付いている壁材種は耐力に低減・補正がかかっている(内訳は使用壁材一覧参照)

凡例 ■ 無開口壁(面1、軸組、面2)

■■■ 開口壁(面1、軸組、面2)

□ 柱

壁材種コード 103: 底かい(30×90)

320: 耐力無

422: 耐力無

424: 木張り

精密診断法1
現状

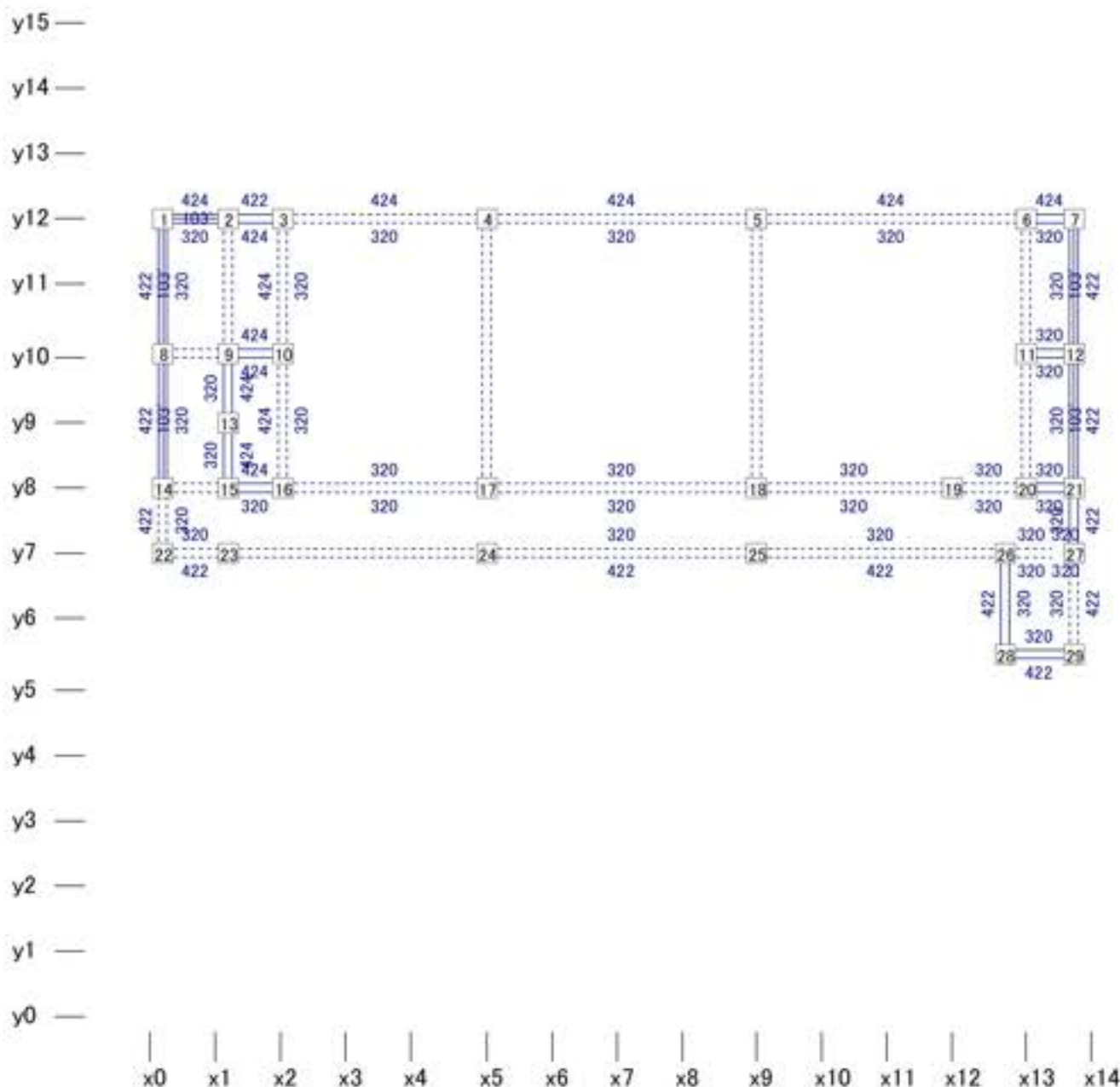
精密診断法1平面図(壁材種表示)

日付: 2025年07月19日 13:01:08

建物コード: 018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

2階



縮尺 1/90

※壁材種コードに「-1, -2, ...」が付いている壁材種は耐力に低減・補正がかかっている(内訳は使用壁材一覧参照)

凡例 ■ 無開口壁(面1、軸組、面2)

■■ 開口壁(面1、軸組、面2)

□ 柱

壁材種コード 103: 底かい(30×90)

320: 耐力無

422: 耐力無

424: 木ずり

精密診断法1
現状

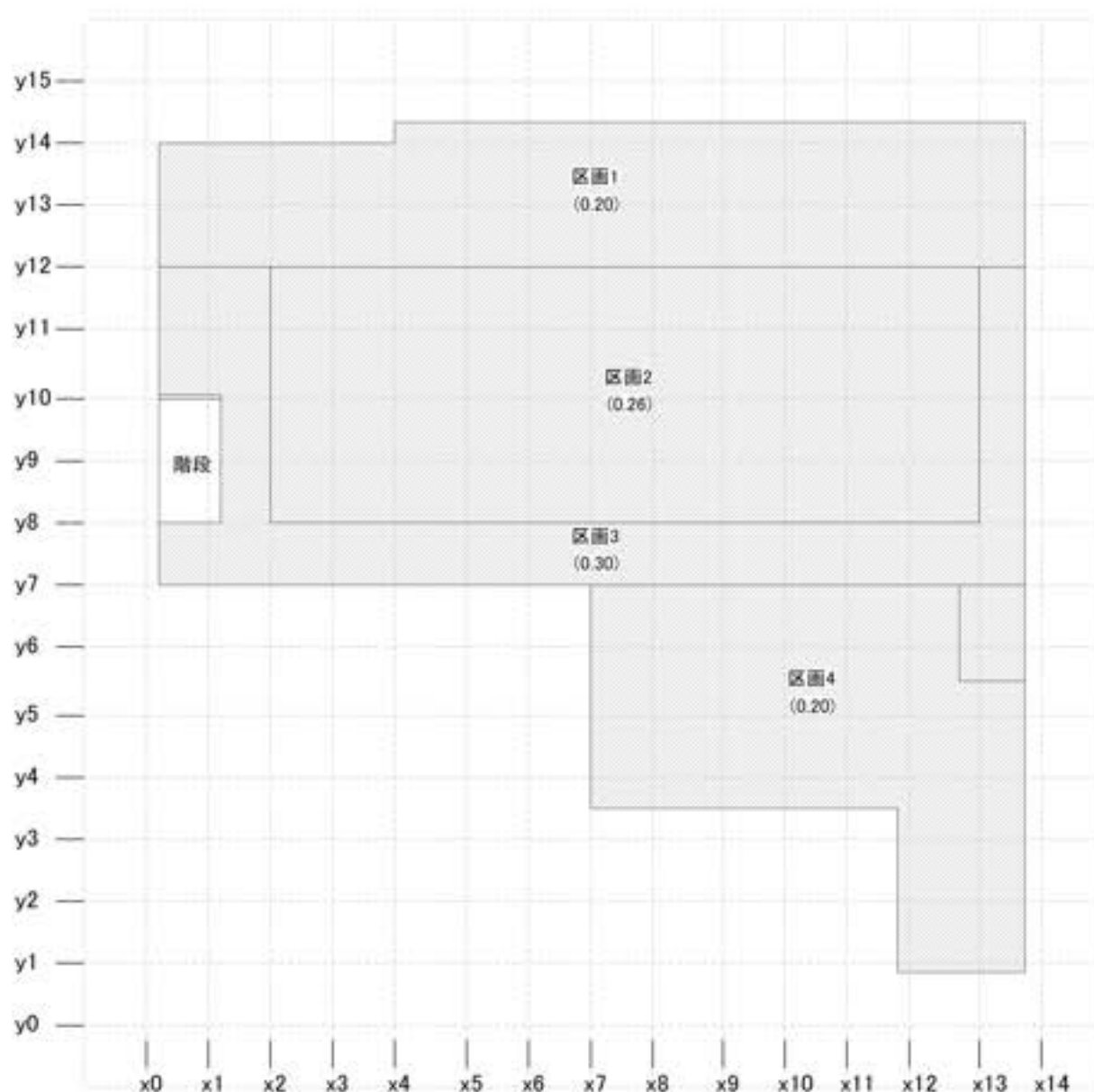
精密診断法1平面図(平均床倍率)

日付: 2025年07月19日 13:01:08

建物コード: 018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

1階



縮尺 1/100

凡例 ■ 屋根・下屋 ■ 上階床 □ 吹抜・階段(床倍率0) ■ 部分入力区画(括弧内は床倍率)

床倍率 2階屋根: 0.20

2階床: 0.39

※水平構面仕様の内訳は「9.平均床倍率計算表」参照

精密診断法1
現状

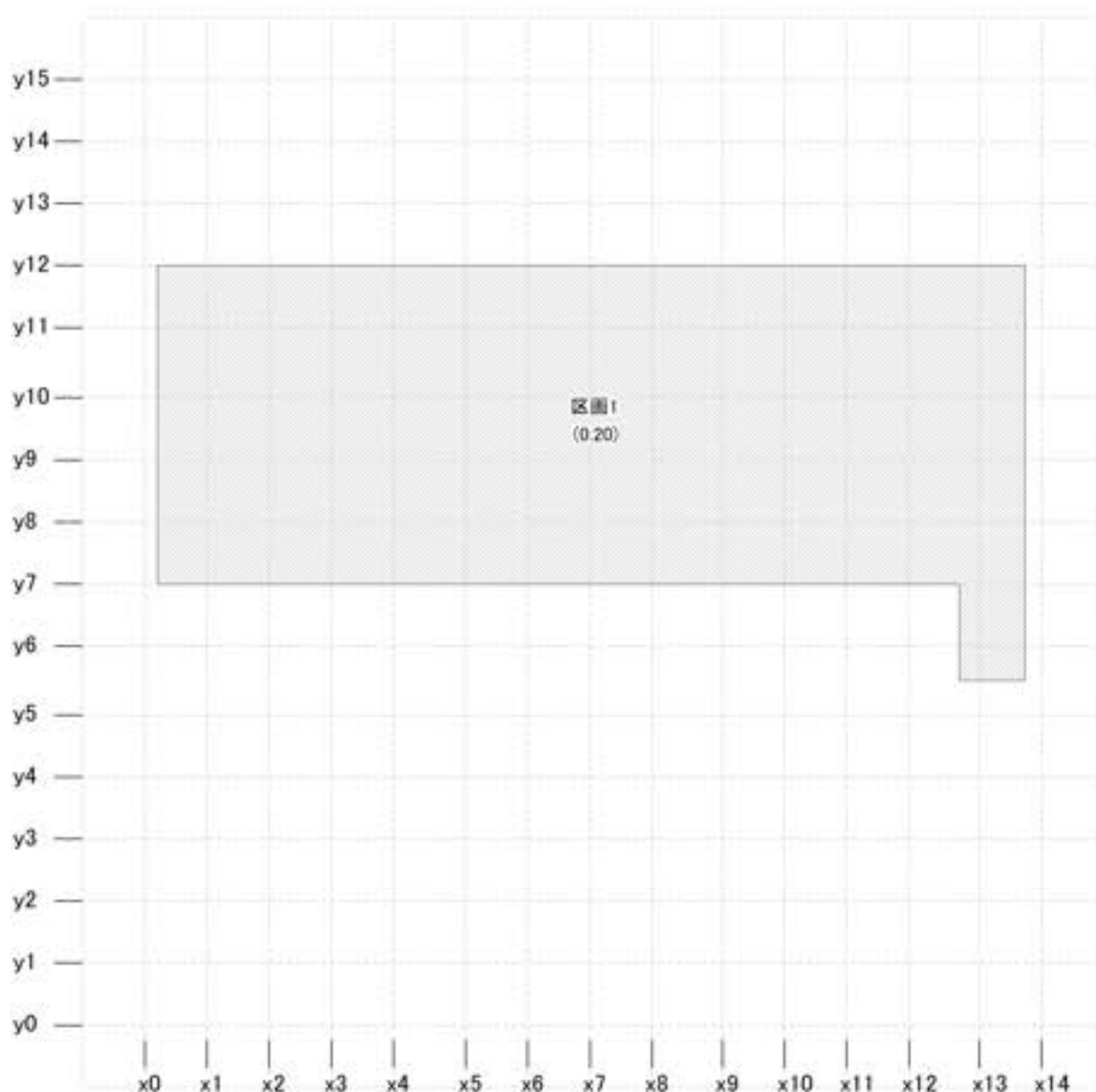
精密診断法1平面図(平均床倍率)

日付:2025年07月19日 13:01:08

建物コード:018201

香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

2階



縮尺 1/100

凡例

■ 屋根・下屋

■ 上階床

□ 吹抜・階段(床倍率0)

■ 部分入力区画(括弧内は床倍率)

床倍率 2階屋根:0.20

2階床:0.39

※水平断面仕様の内訳は「9.平均床倍率計算表」参照

補強アドバイス

日付: 2025年07月19日 13:01:08
建物コード: 018201
香美市香北町美良布字水分ノ本1141番17

目標評点 1.5 (1.0)

補強アドバイス

分類	項目	アドバイス	場所
バランス	偏心率	配置のバランスが良くないので、壁に関する補強は建物の弱い側よりの壁に関して重点的に行うと効果的です。	1階左下側X、Y方向
壁関連	一般壁	壁が少ないので、壁を増やすことによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向
	筋かい	筋かいを追加・強化することによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	開口	開口の割合が高いので、開口部を通常の壁に変えることによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	木製筋かい接合部		
	柱頭柱脚接合部	両脇の柱の接合部の強さが十分でない壁があるので、強い接合金物を使うことによって評点を上げることができます。	2階Y方向
	外壁面材	外壁に面材耐力壁を張ることによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	内壁面材	内壁に面材耐力壁を張ることによって評点を上げることができます。	1階X、Y方向 2階X、Y方向
	壁劣化		
柱関連	柱太さ		
	柱劣化		
その他	建物重量	建物が重いので、軽くすることによって評点を上げることができます。算定条件が精算法の場合、建物の部位ごとに重さを変えることができます。	
	基礎		
	床倍率	床倍率が低いので、より強い水平構面に変えることによって評点を上げることができます。	2階床、1階屋根、1階桁梁

アドバイスは、補強をすることによって上部構造評点を上げることができる項目について表示されます。
場所は、補強の効果がある階、方向が示されます。



外観

南面



外観

西面



外観

北面



外観

東面



内観(1階)

和室①



内観(1階)

和室②



内観(1階)

洋室



内観(1階)

北土間



内観(1階)

北土間



内観(1階)

中土間



内観(1階)

西土間(北玄関)



内観(1階)

西土間(北玄関)



内観(1階)

厨房



内観(1階)

厨房



内観(1階)

洗面・脱衣室



内観(1階)

浴室



内観(1階)

トイレ(北)



内観(1階)

トイレ(南)



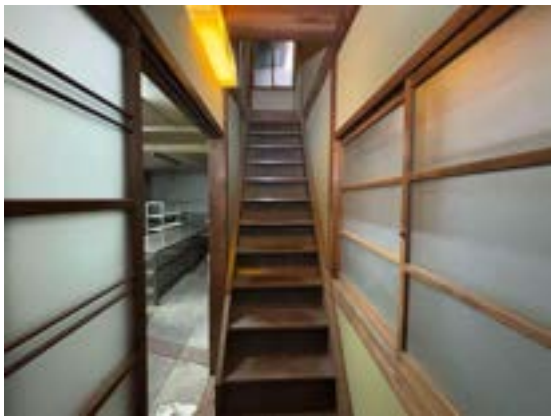
内観(1階)

廊下(南)



内観(1階)

廊下(西)



内観(1階)

階段



内観(2階)

和室①



内観(2階)

和室②



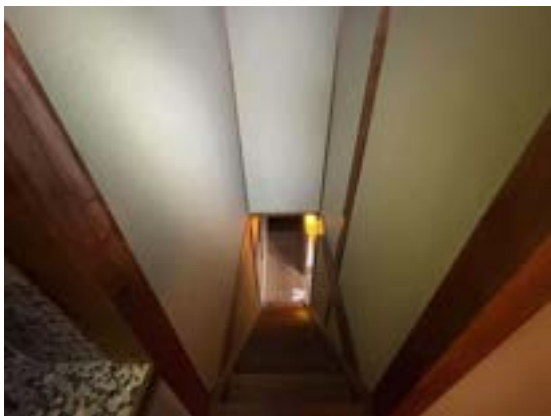
内観(2階)

和室③



内観(2階)

廊下



内観(2階)

階段



内観(2階)

トイレ



内観(2階)

防水バルコニー



屋根裏



屋根裏



屋根裏



屋根裏



床下



床下



床下

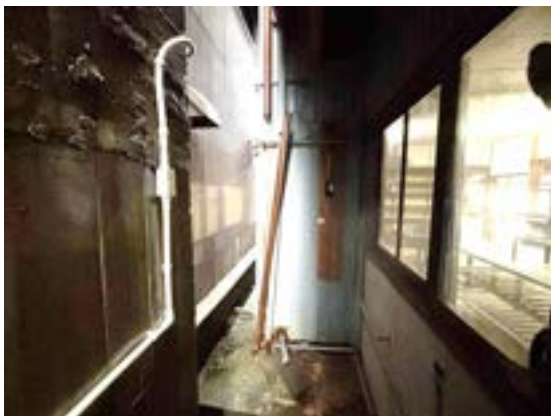


床下



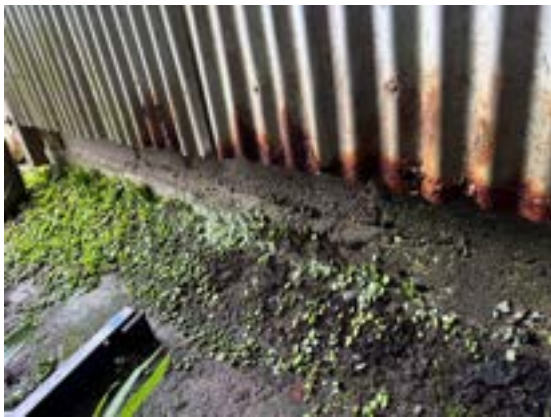
劣化部

樋 さび



劣化部

樋 ずれ



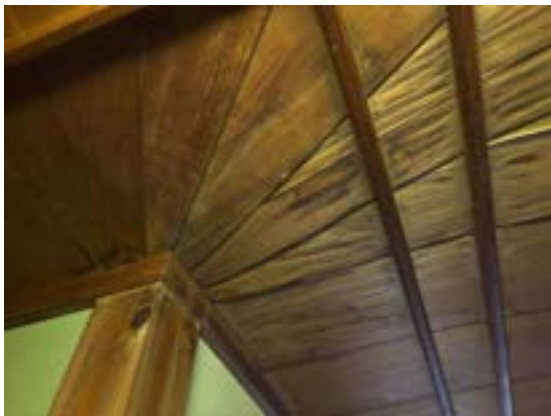
劣化部

外壁材 さび



劣化部

外壁材 剥落



劣化部
内壁 水浸み痕



劣化部
居室天井 雨漏り腐朽



劣化部
浴室タイル 欠損



劣化部
基礎亀裂(2.0mm)



その他
筋交い確認(屋根裏)



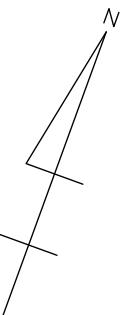
その他
内外壁下地確認(屋根裏)



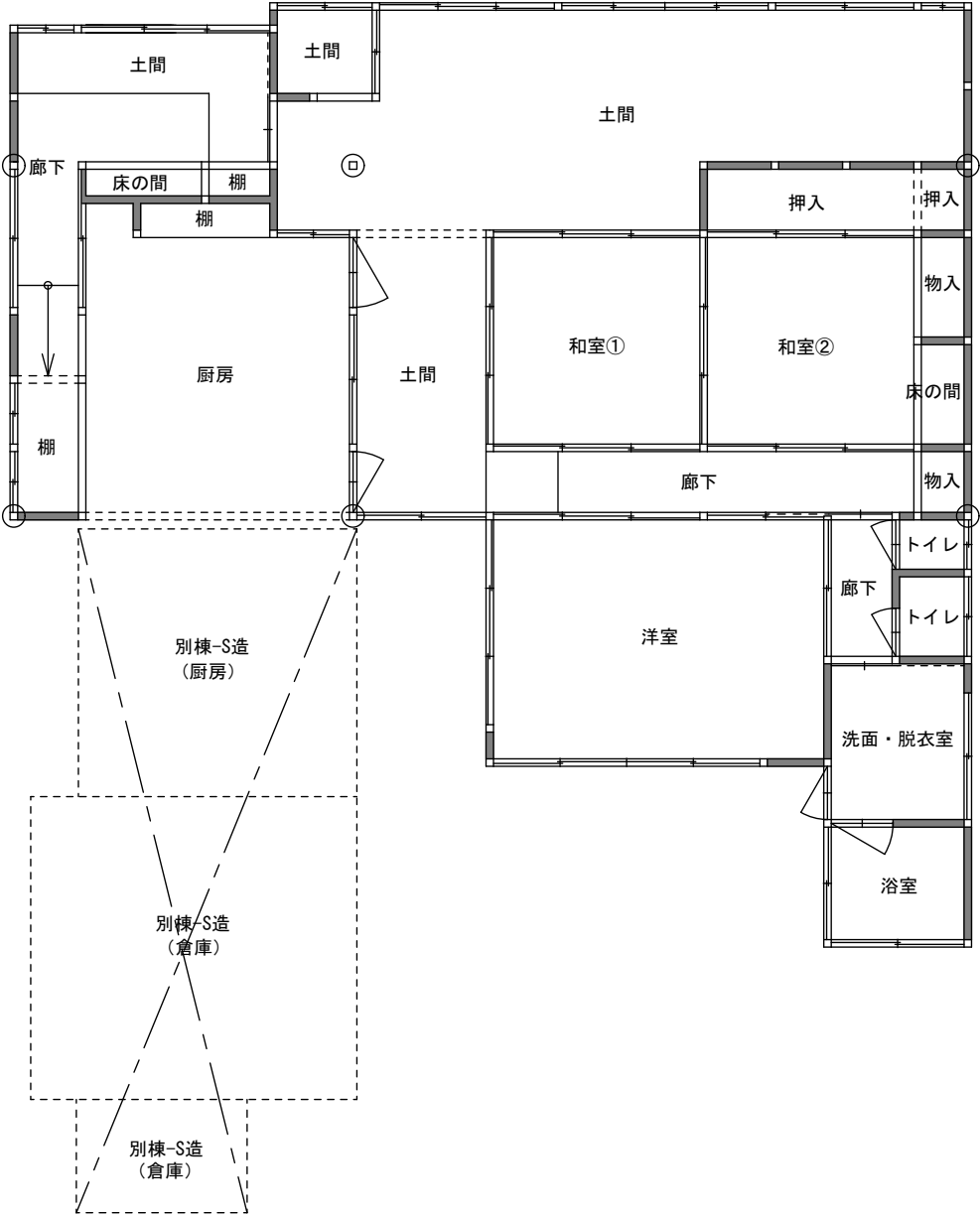
その他
基礎鉄筋調査



その他
床下部材含水率調査



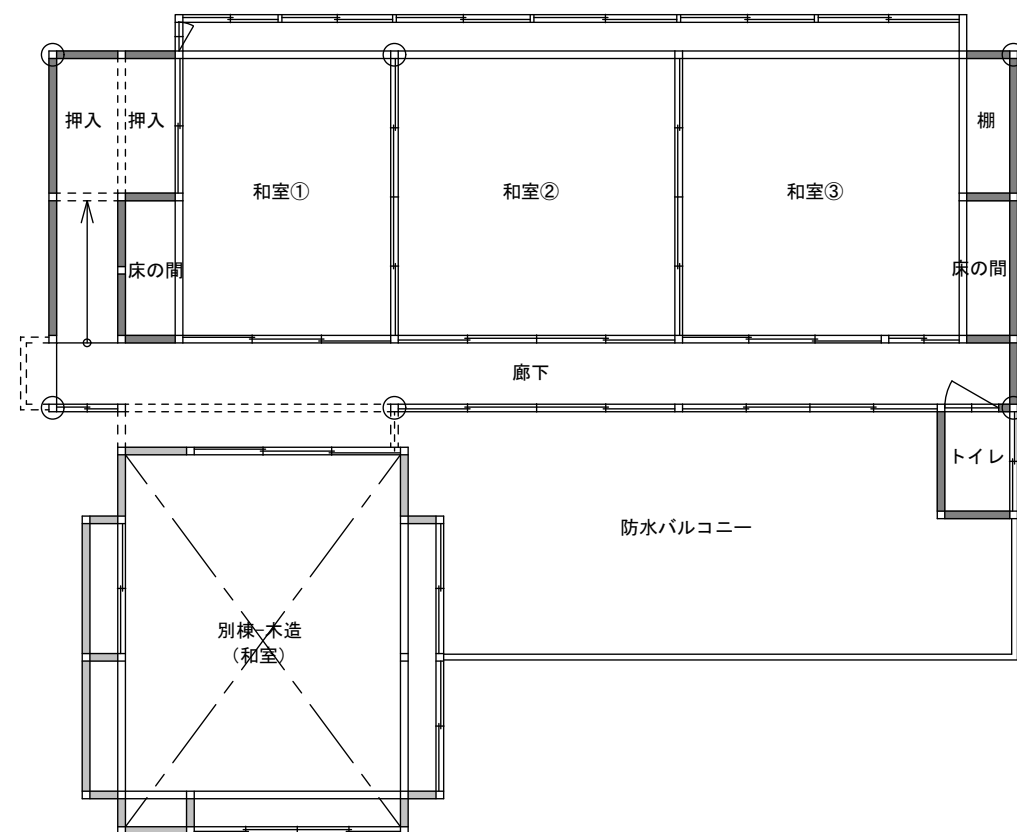
12,710						
910	2,550	1,060	1,820	2,850	2,850	670



2,120
910
1,425
1,425
910
1,920
2,175
1,600
12,485

1階平面図 S=1:100

12,710					
910	760	2,850	3,760	3,760	670



1,880
1,880
910
1,415
1,870
7,955

2階平面図 S=1:100

連絡事項

委託契約書内「仕様書」の「5 耐震診断の詳細および3)耐震性能判定等」について、

精密診断法Ⅰの診断による「一般社団法人高知県建築士事務所協会」の耐震診断結果の判定について、現在上記協会の精密診断判定については実施していない旨の回答があったため、本契約内建物の耐震診断結果の第3者判定は受けておりません。

注意事項

この診断は、建築基準法で定める「極めて希に発生する地震」に対し、木造住宅がどの程度の安全性があるかを判定するものです。

「倒壊する可能性が高い」、「倒壊する可能性がある」の場合は、補強改修の対策を講じる必要があります。また、「倒壊しない」、「一応倒壊しない」の場合は、住宅に被害がないということではなく、建物に損傷を受けることはあっても、倒壊して人命が失われるほどの被害は受けないという意味です。

また、住宅の工事の施工が良好に行われ、かつ適切に維持管理されていて、部分的な欠陥がないことを前提としていますので、総合判定が高くても部分的な欠陥がある場合はその補修等の検討が必要となります。これについては総合評価の注意事項の指摘事項を参考にしてください。

この診断は国土交通省住宅局建築指導課監修による「2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」に基づき作成された「改訂版 高知県木造住宅耐震診断マニュアル」により十分に技術的に検討されたものですが、個々の建物ごとに状況が異なるため、あくまで安全性を判断する目安であり、倒壊しないことを保証するものではありません。

また、図面などの資料がなく、建物の状況を十分に把握できない場合は、推計に基づき診断を行いますので、診断結果は幅をもってとらえてください。

耐震診断はあくまでも建物自体を対象としておりますが、兵庫県南部地震でも建物は無事でありながら家具の転倒等による犠牲者も多数でした。また、ブロック塀の倒壊でも大きな被害がでます。建物の耐震化と同時に、家具の転倒防止、ブロック塀の改修等についても是非行ってください。